

第2学年社会科学学習指導案

日 時 平成18年11月10日(金)
生 徒 盛岡市立城西中学校 2年4組
男子22名 女子17名 計39名
指導者 教諭 菊池 毅

1 単元名 立憲政治の始まりと日清・日露戦争 ～糸を引くのも国のため～

2 単元について

本単元では、19世紀後半の開国、明治維新以降のわが国の近現代の歴史について、世界の動きとのかかわりの中であらえさせようとするものである。わが国の歴史は、欧米列強のアジア進出など複雑な国際情勢の中での開国、明治維新以来、常にアジアや欧米諸国と密接なかかわりを持ちながら進展してきた。学習指導要領では、内容工に「政府の富国強兵・殖産興業政策の下で進展したわが国の近代産業が産業革命を経て発展したことと、その中での国民生活の変化について理解させる」とあり、日清戦争前後から製糸・紡績業や鉄鋼業が飛躍的に発展したことで資本主義経済の基礎が固まったが、その一方で労働問題や社会問題が発生している。身近な資料なども活用しながら、目標(4)の「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高める」ようにしたい。

3 生徒の実態

社会科の授業では生徒は明るく、おおむね授業に意欲的に参加しようとする姿勢が感じられる。男子を中心に発言をする生徒が見られるものの、自分の考えをきちんと整理して発表するまでにはなっていない。

日常の授業では、課題を設定して考察する場面をつくる学習を進めてきた。生徒は資料から自分の考えを導き出そうとがんばっているが、資料を深く読み取ることが不十分な生徒も見受けられる。

4 指導観

明治に入り、わが国は新政府の諸改革により短期間に近代国家の基礎が整えられたとともに、人々の生活にも大きな変化をもたらした。この単元では「急速に近代化を進めたわが国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを理解させること」、「わが国の近代産業が産業革命を経て発展したことと、その中で国民生活の変化について理解させ、文化の大衆化が進んだことに気づかせる」が学習指導要領のねらいとなっている。

については、自由民権運動の全国的な広まりや政党の結成、大日本帝国憲法が制定されたことにより、当時アジアで唯一の立憲制国家が成立し、議会政治が始まったこと、条約改正では欧米諸国との対等の外交関係を樹立するための人々の努力があったこと、日清・日露戦争においては、大陸をめぐる当時の国際情勢を背景に、戦争に至るまでのわが国の動きや国内外の反応などについて重点をおき指導いきたい。

については、わが国の産業は日清戦争前後から飛躍的に発展して資本主義の基礎が固まったがそれは政府の富国強兵や殖産興業政策の下で進展したこと、鉄道網の広がりや工業の発展などにより国民生活は向上したがその一方で社会問題や労働問題が発生したこと、文化面で学問や科学技術に著しい進歩があったことや新聞・雑誌の普及、大正末期のラジオ放送の開始が文化の大衆化を進めたことなどに焦点をあてながら指導していきたい。

5 単元目標

- (1) 急速に近代化を進めたわが国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましについて意欲的に調べることができる。 【関心・意欲・態度】
- (2) 政府の富国強兵・殖産興業政策の下で進展したわが国の近代産業が産業革命を経て発展したと、その中で国民生活が変化したことを関連づけて考察することができる。 【社会的な思考・判断】
- (3) 日清・日露戦争、条約改正を通じた日本の国際的地位の向上、近代産業の発展とその影響について、資料を活用してまとめることができる。 【資料活用の技能・表現】
- (4) 日本の国際的地位の向上と国民生活の変化及び文化の大衆化について理解できる。 【知識・理解】

6 指導計画 指導構想表 参照 略

7 本時の指導

(1) 目標

製糸工場で働いた女工の生活に関心を持ち、当時の社会問題について意欲的に調べようとする。 【関心・意欲・態度】

日本の産業の発展を労働者の立場から考察していくことができる。 【思考・判断】

(2) 具体の評価規準

観 点	十分に満足できる A	おおむね満足 B	未達成な生徒への支援
関心・意欲 ・態度	・産業が発達する陰で、様々な労働運動や社会運動がおきていたことにも関心を持ち、その原因を意欲的に調べようすることができる。	・資料から労働者の実情を知り、労働者の生活について意欲的に調べようすることができる。	・資料を通して課題を追究する際、生徒にイメージを持たせるような発問を工夫する。 ・個々の発言を全体で共有し、疑問を解決しようとする意欲を高める。
思考・判断	・労働運動や社会運動、公害問題の発生を急激な資本主義の発展と関連づけてその理由を考察することができる。	・労働者の生活を通して、日本の産業の発展が労働者の努力に支えられていたことに気付くことができる。	・労働者の生活がどのようなであったか確かめさせ、産業の発展とどのように関わっているかを考えさせる。

(3) 本時の構想

本時は日本の産業の発展に伴う問題について、諸資料をもとに考察する場面を設定し、自分自身の考えを持たせていく。生徒たちは、これまでイギリスの産業革命について学習した知識をもっているため、それらを活用しながら、日本の産業は政府の富国強兵や殖産興業の政策の下で急速に発展したが、その背景には、厳しい条件の中でも国のために労働者たちががんばって働いたこと、労働条件を改善すべく労働争議や社会運動が起こったことに気づかせたい。また、産業の発展を優先し対応を後回しにしたために公害問題を深刻化させたことについては身近な資料を提示しながら考えさせていきたい。

具体的には、課題解決的な学習を展開し資料を通して、労働者は条件の悪い中で働かされたこと、厳しい労働条件を改善しようと労働争議や社会主義運動が起きてきたこと、日本でも産業の発展を優先し、公害対策を後回しにしたために公害問題が深刻なものになったことに気づかせたい。とりわけ については、労働時間、賃金、食事を例に挙げ、厳しい条件の中で労働していたことに理解させるとともに、工女たちのアンケートから私たちの考え方と工女たちの考え方に違いがあったことに気づかせたい。

(4) 本時の展開

	学 習 内 容	学 習 活 動	留意点など	評 価
導 入 10 分	1 前時の確認 2 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 労働者はどのような思いで働いていたの だろうか。 </div>	1 前時の復習をする。 ・日本の産業革命は何工業から 始まったか など 2 本時の学習課題を設定す る。	あまり時間をかけないように する。 「ああ野麦峠」の写真 写真を見て気づいたことを発 表させる。 ・服装 ・工場のような など	
展 開 35 分	3 課題に対する予想 4 課題の追究 (1)労働条件について ・労働時間、賃金、食事 (2)社会運動と公害問題 について 5 課題の解決	3 課題に対する予想を発表す る。 ・嫌だ ・辛い ・お金儲けをしたい など 4 資料をもとに課題を追究す る。 (1)労働時間、賃金、食事から課 題を追究する。 (2)社会運動や公害問題に関す る記述がある部分を教科書か ら見つけ、線を引く。 ・昔の北上川の写真から気づく ことを発表させる 5 女工のアンケート結果から 当時の労働者の思いについて 考える。	予想の根拠を述べさせる。 予想を確かめるためにどんな 資料があればよいかを考えさ せる。 労働時間、食事、賃金、女工 へのアンケートの資料 厳しい条件の中で働いていた ことに気づかせたい。 労働条件の改善を求めて労働 争議や社会主義運動が起こる が、政府は厳しい態度で臨ん だことを知る。 昔の北上川の写真 自分たちの住んでいる地域で も公害問題があり、その解決 のために多くの苦労があるこ とに気づかせる アンケートから、生徒の心を 揺さぶり、厳しい条件にもか かわらず、労働者は生産の向 上に努力したことに気づかせ る。	資料から労働 者の実情を知 り、労働者の生 活について意 欲的に調べよ うとすることが できたか。 (発言)
終 末 5 分	6 本時のまとめ	6 本時のまとめをする	政府の富国強兵や殖産興業政 策の下、わが国の近代産業は 発展したが、発展の陰に厳し い条件の中で働いた労働者の がんばりがあったことに気づ かせる。	労働者の生活 を通して、日本 の産業の発展 が労働者の努 力に支えられ ていたことに 気づくことが できたか。 (発言)

平成18年度 第2学年社会科指導計画

指導計画と評価基準（8時間）

時間	学習項目 指導目標	評価規準（B 概ね満足できる）			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	国会開設を目指して自由民権運動が広がり、憲法案や政党が結成されたことを知り、その影響について考える。	自由民権運動に関心を持ち、当時の様子や実際に起こった運動について進んで調べ、人々の心情や状況をとらえようとする。			自由民権運動の節目となる年代について確認するとともに、その目指すところ（自由・権利の実現と国会の開設）を理解できる。
2	立憲政治の始まり 大日本帝国憲法の特色について考えるとともに、当時アジアで唯一の立憲国家であることを知り、議会政治の始まりについて理解する。	内閣制度の確立や大日本帝国憲法が制定されたことから、日本が近代国家の仲間入りをしたことに関心を持ち、意欲的に今の政治の仕組みとどう違うのか調べようとする。	政治制度が整備されたが、当時の国際情勢の中で日本がどのような方向に進もうとしていたのか考察することができる。		
3	朝鮮をめぐる戦い 条約改正のために、近代的な諸制度を整え、国際的な地位を高めることができたことを知るとともに、朝鮮に対する日本の領土及び市場の拡大要求が清国との対立を生み日清戦争を引き起こす原因となったことに気づかせる。	条約改正をするためには、どんな制約があり、どのような経過で行われたか、また日清戦争がどのような戦争であったかを意欲的に調べようとする。	条約改正時の国際情勢はどのような状態であったか、また、条約改正の成功や日清戦争の勝利により、その後の日本がどのような方向で内政や外交が進んだかを予想することができる。		
4	激動する東アジア情勢 中国に対する欧米列強の植民地獲得が激しくなり、対ロシア政策として日英同盟により、日露戦争を引き起こしたことを知るとともに、その推移と終結の事情、条約改正により、欧米諸国との関係が対等になったことを理解する。		日露戦争の戦場、日露が戦場で国や住民にしたこと、戦争の結果、国民感情などを多角的に見て、日露戦争の意味を考察することができる。		列強の中国分割と日英同盟を当時の国際社会と関連させて理解することができる。

5	地図から消えた韓国 日本は韓国を併合し、朝鮮を支配したことを理解するとともに、半植民地となった中国では、清を倒し、中華民国が成立したことを理解する。		韓国併合までのプロセスの概要を併合後の支配の理解を通して、日本が朝鮮の主権を著しく侵害したことを指摘することができる。		韓国併合までのプロセスの概要を、条約調印の方法や国際関係から理解するとともに、併合後の支配を土地略奪・同化政策の観点から具体的に理解することができる。
6	各地に工場が 日本の産業革命は軽工業から始まり、19世紀後半には飛躍的に発展し、資本主義経済の基礎が確立したことを理解するとともに、交通網の発達、都市や農漁村の生活に大きな変化をもたらしたことに気づく。		日本の産業革命が、軽工業から重工業へと発展していったことを、人々の生活の変化と関連づけて考察することができる。	写真やグラフなどの資料から、当時の工場の特色や輸出額の移り変わり、地域社会や生活の変化を読み取ることができる。	
7	糸を引くのも国のため 製糸工場で働いた女工の生活に関心を持ち、当時の社会問題を調べたり、日本の産業の発展を労働者の立場から考察する。	資料から労働者の実態を知り、労働者の生活について意欲的に調べようとする。	労働者の生活を通して、日本の産業の発展が労働者の努力に支えられていたことに気づく。		
8	広がる新しい生活 伝統的な文化の上に欧米文化を受容して形成されたことに気づくとともに、文学・教育・医学・科学などの発展が著しかったことを理解する。	文明開化により社会がどのように変化し、それにより人々の生活がどのように変化したのかを進んで調査しようとする。	明治政府がなぜ西洋の文化の輸入に積極的であったのかが考察できる。当時の女性の地位について、人権の点から現代と比較して考えることができる。		